

西福全
松平之庫頭源親良 絶家

干城録卷第五

松平

加賀右衛門源康次喜平宗次の子なり

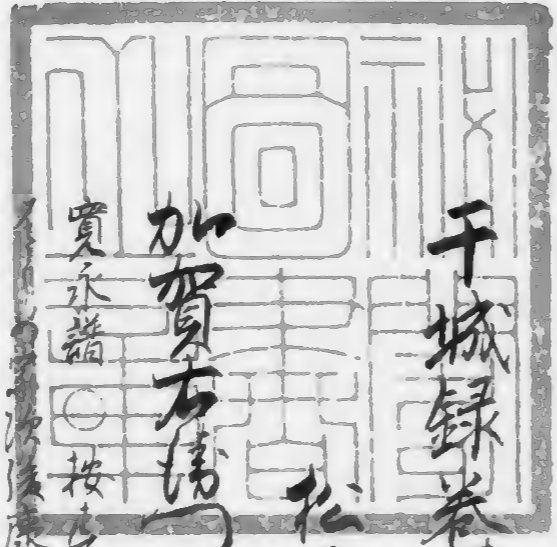
實永譜 按之るに家傳小喜平次 二河小川なるそ

め新五左衛門又新左衛門ととていひけり家傳先

祖ハ加賀守乘元乃ニ男加賀右衛門宗次

と之り家譜家傳 按之るに實永譜 二河國額額

田郡宮石石に居せしより宮石の松平也



稱し乗次子と加賀右衛門元次といふ家傳其

子と八郎右衛門自次稱しこま康次り

祖父寛永譜家傳父宗次ハ二河小生也寛永譜

自享書上廣忠卿の御時よりはのうまり永

祿二年今川義元尾張國小出張せしとき

東照宮の御使として宗次今川義元の陣

みより五月十九日義元小力と合せ遂に

桶狭間小く討死自享書上家傳法名と源宗と

い寛永譜按らる小家傳康次ハ永祿元年十

五歳にしてめし出さる成瀬去平久次と

ひとく

東照宮に御傍出くつりまる寛永譜家傳

あまさい戦場小志こいひこそまりて

勤切多うるく久限るく感へ給ひく

宗以り作れ二方白乃冒とそ賜ひある

其後成瀬久次とそとに命小ととり

事出牙々々磐居〜〜天正九年二月
高天神小じうらせ給ひ〜時久次とよに
志のひき供奉〜た〜に早くこれ聞え
ていまこゆふさせ給りさる小志あき遊ひ
ま〜〜事い〜横さま〜〜
明日の款いみ袒討の高名あり〜
ちよ〜〜てんとの給りせ〜翌日
城に時西人た〜〜先も小〜み遊〜

袒討れ高名とあり〜た〜
是より磐居とあり〜
御感稱と〜
以彼小と先陣〜
はる寛永諸貞
享書上のち法去君れ附属と〜
あま〜慶長八年九月〜
はる〜返〜
采地四百六十石餘と〜
傳家同十年

清上臣の時伏見城代とあり 貞享書 上家傳 同

き十九年大坂一幸ありしとき駿府の

城代とあり 家傳 元和九年八月廿二日 按しるるに 家傳よりハ

廿八日と 駿府城に死す 寛永譜貞 享書上 一七二二

形り 寛永譜貞 享書上 法名と源榮といふ 寛永譜〇按 さら小家傳に

ハ玄英 といふ その子彦六郎某父より先く死す

〜〜〜ハ二男正次家と継 寛永譜〇按しるるに 家傳ハ正次と嫡男と

彦六郎と二男の弟より 正次ハ二河小治とす 今寛永譜よりさうふ

加賀古傳といふ 家傳 ともハ古傳といふ

榮照宮小治とありて大番といふ

家譜 慶長五年岡原の役小治とありて

まのり

么徳院殿にはうゆつて大坂西度れ役也

従ひまゝいせ 寛永譜 家傳 後

大猷院殿小治とありて大番の垣頭と

あり 寛永譜 貞享書上 寛永十年岡原乃國野山

の檢使と命さる事して禄とたまふ御日記

同十四年九月十九日歿せり寛永譜 家傳 五十四

歳より法名と祖安といふ寛永譜〇按らる小貞字書上に五十五歳と書た

まことも天正十二年一とせるとある一合せるといふ 達あり今寛永譜小と云ふ

守正成駿河小生家傳 女内藏助也

といのち大隅守ともな系亮といふ

はる家譜 公徳院殿小まふえたてまつり寛永譜 寛

永二年六月めし出さまこと俸米二百俵

と賜り家譜 沙小性組列小り家傳 同十

年二百石に加増とたまひ御日記 常陸國鹿

嶋郡一石のうちにありと定む五百石と知はし同

十四年父正次没し一石より正成り采地高

父小ゆきよりぬまの家督乃と賜り一石

四百六十石餘ハ一石たてまつり家傳 同

十九年十月

嚴有院殿いままゝ若君とゆうさせ給ひ
時附屬とせしる貞享書
上家譜 同二十年正月
布衣と着たる事とあるは正保四年十
二月まゝ二百石と加へたまひ慶安二年
八月水戸中納言頼房御相換國信澤の温
泉小のあさせたまひ時清使成
うけこぬりて改地小しる九月八日
嚴有院殿の傳くうまゝ翌日仰りて

信馬方と支配は同四年八月叙爵して
大隅守に任じ御日記 同年十月まゝ加増乃
地五百石と下總國匝さ遜郡さにうらまゝた
まふ御日記
家傳 其子宇右衛門正勝寛永廿年
八月七歳して
嚴有院殿に附してせしる元小候して番
とつと免のち清小姓とある御日記の今乃
申奥信番松平
藤九郎正郷
う祖より